

**2020年 第33回全日本420級選手権大会
兼 全日本女子420級選手権大会
第6回全日本 U17 420級選手権大会**

支援艇ガイド

このガイドは大会を安全に行うための、支援艇へのお願いであり、「規則」ではありません。
また、いずれの記載事項も「規則」を変更していません。



■ 大会が貸与するデジタル無線機の取り扱い説明

- ▶ 支援艇出艇申告時に、支援艇にデジタル無線機を貸与します。
 - ・ チャンネルロック、通電状態でお渡しします。その場で通信可否を確認下さい。
 - ・ 通信機の保全是、各支援艇の責任でお願いいたします。

「ロック」表示

チャンネルは固定されています。



CH01

運営の通信が傍受できます。

※ 緊急時以外は傍受専用です。発信は行わないで下さい。

- ▶ シグナル・ポートからの指示があった場合、**CH03に変更し送受信を許可します。**

- ② 「ロック」表示が消えていることを確認します。



① ロックボタンを長押し、チャンネルロックを解除します。

- ③ チャンネルダイヤルを回転させて、**CH03**に変更します。



スイッチ、ボリュームダイヤル時計回りに回すと音量が上がります。

- ④ ロックボタンを長押ししてチャンネルをロックします。

通信ボタン

押しながら話して下さい。

頭切れを防止するため、ボタンを
押下後、ひと呼吸置いてから
話してください。



- ▶ 支援艇帰着申告時に、デジタル無線機を返却下さい。
 - ・ 運営役員がその場で作動確認を行いますので、立ち合い確認をお願いします。

■ オフィシャル・ボート一覧

配置	艇名	艇仕様	コール・サイン
シグナル・ボート	浦風	Hard Boat	シグナル
ピン・ボート	グランパス	Rib	ピンボート
1マーク・ボート	SWC	Rib	マークワン
2マーク・ボート	恵風	Rib	マークツー
3マーク・ボート	NORO	Hard Boat	マークスリー
フィニッシュ・ボート	あゆち	Hard Boat	フィニシュ
レスキュー・ボート1	モリゾー	Rib	レスキューワン
レスキュー・ボート2	丸玉丸	Rib	レスキューツー
ジュリー・ボート1	オリーブ	Rib	ジュリーワン
ジュリー・ボート2	Vicky	Rib	ジュリーツー
メディア	shokki - v	Rib	メディア

■ 支援艇一覧

水域	チーム名	艇名	艇種	艇全長m
関東	江ノ島ヨットクラブジュニア	シリウス	Rib	4.92
関東	霞ヶ浦セーリングチーム	グランブルー	Rib	5.80
関東	霞ヶ浦セーリングチーム	PMJ	Rib	5.80
関東	葉山町セーリング協会	Hayamar	Rib	4.82
中部	愛知県立半田高等学校	UMINARI	Rib	5.18
中部	岐阜県ヨット連盟	cool breeze	Rib	5.80
中部	静岡県立熱海高等学校	101 (とい)	Rib	3.29
中部	富山県立新湊高等学校	風丸	Rib	3.78
中部	碧南セーリングクラブ	shokki - iii	Rib	5.50
中部	三重県ヨット連盟	TEAM MIE SAILING	Rib	5.80
関西	和歌山工業高等学校	PRIDE	Rib	5.07
四国	香川県立高松商業高等学校	イリコ	Rib	4.73
九州	佐賀県ヨット連盟	Sea Maiden	Rib	5.80
九州	福岡第一高等学校	ダイイチジュニア	Rib	5.80
九州	長崎県セーリング連盟	長崎	Rib	4.80

■ 海陽ヨットハーバーポンドでのお願い事項

- ・ [出港、帰港時は、「レース艇」「運営艇」優先でお願いします。](#)
- ・ ポンド内はデッド・スローで、引き波を立てない様、お願いします。
- ・ 艇を曳航する場合は、港の入口から離れて他の艇の出入港に支障の出ない場所で係索して下さい。

■ 安全確保に向けた基本方策

- ・ 5Knt - Oscar Positive (O旗掲揚) まで : レスキュー 1-2 の2艇での安全管理体制。
- ・ Oscar Positive - 16Knt : レスキュー 1-2 の2艇に加えジュリー・ポート2艇、計4艇での安全管理体制。
- ・ 17Knt - : レスキュー 1-2 の2艇、ジュリー・ポート1-2の2艇に加え支援艇を合流させた安全管理体制。
➤ **Signal Boatからの指示での「緑色旗」掲揚とSignal Boatからの通信指示により、支援艇に安全確保のための活動に協力いただきます。**

■ 支援艇との協業での安全確保

- ▶ 16Knt以下のコンディションでは、大会オフィシャル・ポートのみで安全確保を行います。
(参考 : 指示23.1より抜粋) 支援艇は、海上では常時無線を傍受していなければならない。
(参考 : 指示23.5) [NP]支援艇は、準備信号からレースが終了するまで、またはレース委員会がレースの延期あるいはレースの中止の信号を発するまで、添付図Bにある支援艇の制限区域に入ってはならない。
(参考 : 指示23.7) 指示23.6で規定された救助活動に従事する場合を除き、引き波の影響をレース中の艇に与えてはならない。
(参考 : 指示23.8) 支援艇は、レース委員会、プロテスト委員会またはテクニカル委員会から、コース・エリアからさらに離れるよう指示された場合、直ちに従わなければならない。
- ▶ 17Knt を越えたら、Signal Boatからの指示での「緑色旗」掲揚と、Signal Boatからの通信指示により、指示23.6に基づいた支援艇による安全確保のための活動協力を展開します。
(参考 : 指示23.6) 全ての支援艇に対する救助活動の要請は、レース委員会艇に「グリーン旗」の掲揚と共に、レース委員会信号艇からの一斉通信にて通告する
この要請があった場合、支援艇はレースをしているエリアを含む全てのエリアにおいて、危険な状態にある艇を可能な限り速やかに救助しなければならない。この場合、指示23.5の前段は適用されない。
ただし、支援艇は艇に対して救助活動を除いた援助を与えてはならない。
- ・ シグナル・ポートの指示で、レスキュー・ポート、ジュリー・ポート、支援艇は、通信チャンネルを1CHから3CHに変更、安全確保に向けた交信を解禁します。
➤ **シグナル・ポートから、3CHを使用して必要な情報を展開します。**
- ・ レスキュー・ポートが支援艇を出艇させているチームの艇が危険な状態であると判断した場合、乗員の安全を確保する監視行動を取りながら、該当チーム支援艇を呼び出します。
 - ① レスキュー・ポートは該当チーム支援艇が現着するまで、乗員の安全を確保します。
 - ② 該当チーム支援艇が現着したら、レスキュー・ポートは該当チーム支援艇に「状況を引き継ぐ」ことを連絡して他の艇の安全確保を行います。
 - ③ 該当チーム支援艇の現着遅れ、現着不能な状況下で乗員の安全が懸念される場合、レスキュー・ポートは速やかに乗員を救助します。
- ・ レスキュー・ポートが支援艇を出艇させていないチームの艇が危険な状態であると判断した場合、乗員の安全を最優先に必要な救助活動を行います。

■ 支援艇の給油について

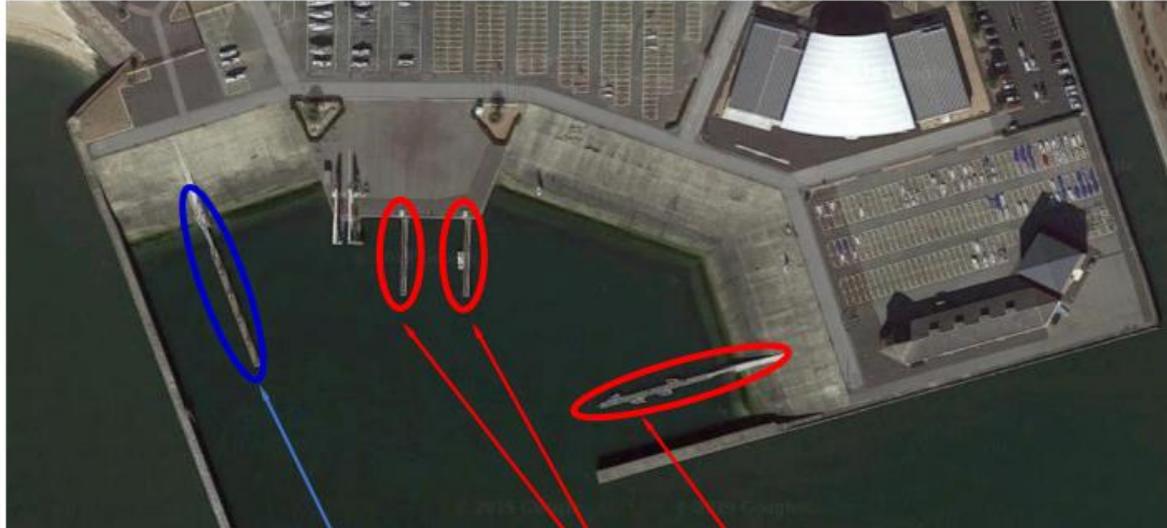
- ・ 豊田自動織機 海陽ヨットハーバーには給油施設はありません。
至近のラグナ・マリナーには給油施設がありますが、マリン価格なので割高となります。
携行タンクを持参され、ガソリンスタンドでの補給をお勧めします。

2020年 第33回全日本420級選手権大会

支援艇用棧橋



この文書は、セーリング競技規則 2017-2020 の定義にある規則 (g) 「大会を管理するその他の文書」に該当する。
公示15.3 i) にある支援艇用棧橋を指示する。



支援艇用棧橋

運営艇専用棧橋. 支援艇係留禁止

海陽ヨットハーバー艇用棧橋. 支援艇係留禁止